

ミニ・ディスクロージャー誌

平成25年9月中間期
営業のご報告

■ ごあいさつ	1
■ 第3次中期経営計画	2
■ 業績ハイライト	3
■ 地域密着型金融の取り組み	6
■ トピックス	8
■ CSR活動	10
■ 財務諸表	14
■ ネットワーク	16
■ 株式情報	17

株式会社 紀陽銀行

■ 設 立 日	明治28年5月2日
■ 所 在 地	和歌山市本町1丁目35番地
■ 資 本 金	800億96百万円
■ 店 舗 数	107店 (和歌山県68カ店、大阪府36カ店) 奈良県2カ店、東京都1カ店
■ 従 業 員 数	2,336名(出向者を除く)
■ 上場証券取引所	東証第一部

※平成25年10月1日現在

※従業員数は平成25年9月30日現在

KIYO FINANCIAL GROUP

紀陽フィナンシャルグループ



※平成25年10月1日現在

※株式会社紀陽銀行は、平成25年10月1日に親会社であった株式会社紀陽ホールディングスを吸収合併いたしました。

本資料におきまして、株式会社紀陽ホールディングスについては、「旧紀陽ホールディングス」と記載しております。

※本冊子に記載している計数は、原則として単位未満を切り捨てて表示しています。

全国銀行協会相談室について

全国銀行協会相談室は、銀行に関する様々なご相談やご照会、銀行に対するご意見・苦情を受け付けるための窓口として、一般社団法人全国銀行協会が運営しております。ご相談・ご照会は無料です。

詳しくは、一般社団法人全国銀行協会のホームページ

<http://www.zenginkyo.or.jp/adr/> をご参照ください。

※一般社団法人全国銀行協会は銀行法および農林中央金庫法上の指定紛争解決機関です。

銀行とのトラブルがなかなか解決しないお客さまは「あっせん委員会」をご利用いただけます。

詳しくは、全国銀行協会相談室にお尋ねください。

電話番号 **0570-017109** または **03-5252-3772**

受付時間 9:00～17:00(銀行窓口休業日を除く)

ごあいさつ

皆さまには平素より紀陽銀行をはじめ紀陽フィナンシャルグループをお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

このたび「平成25年9月期 ミニ・ディスクロージャー誌」を作成いたしました。業績や第3次中期経営計画の概要、また、最近の取り組み状況などをまとめておりますので、ご一読いただければ幸いに存じます。

当中間期のわが国経済は、海外景気の下ぶれを懸念しつつも輸出が持ち直し、各種政策効果の発現やデフレ脱却の兆しも垣間見られるなかで、家計所得や投資の増加傾向が続き、緩やかな回復に向けて着実な持ち直しの動きを続けました。9月には4～6月期のGDPが上方修正されたほか、2020年オリンピックの東京開催も決定するなど、今後の経済成長に期待が集まりました。

当行グループの主要な営業エリアである和歌山県・大阪府においては、経済対策の効果や輸出環境の改善などを背景に、大阪府では徐々に持ち直しの動きに広がりが見られたものの、和歌山県では回復に遅れが目立ちましたが、9月に入りようやく持ち直しの兆しがみられるようになりました。

このような中、当行グループは平成24年4月より第3次中期経営計画をスタートさせ、「お客さまから選ばれ続ける銀行」を目指すという方針のもと、お客さまの利便性向上に努め、業績の向上に取り組んでまいりました。25年9月の業績につきましては預金・貸出金とも残高は順調に推移していますが、貸出金利回りの低下傾向は続いており、本業の収益環境は厳しい状況が続いております。

また、6月の定時株主総会でご承認いただいた事項について、9月5日に公的資金優先株式の残額161億円（簿価ベース）を全額返済し、10月1日には親会社であった紀陽ホールディングスを紀陽銀行が吸収合併し、東京証券取引所市場第一部に上場いたしました。これまでの皆さまのご理解と暖かいご支援に対しまして厚く御礼申し上げます。今後とも、全役職員が一丸となって、当行グループの経営基盤強化や地域経済の活性化に努め、気概も新たに「お客様から選ばれ続ける銀行」の実現に向けて邁進してまいりますので、引き続きご支援、ご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成25年12月



取締役頭取 片山博臣

第3次中期経営計画

平成24年4月より第3次中期経営計画をスタートしております。「大阪府南部から和歌山県にかけて強固な営業基盤を有するトップ地銀」となるように、営業基盤である地元経済の成長を促す「強力なリレバン活動」を推進してまいります。

紀陽銀行の基本方針

目指すべき銀行像

「お客様から選ばれ続ける銀行」

お客様の満足を第一とする心（ハート）を大切にし、お客様の良き相談相手として知恵（ブレイン）を絞り、汗をかき行動する（アクション）銀行を目指します。

第3次中期経営計画における主要テーマ

「大阪府南部から和歌山県に強固な営業基盤を有する地域のトップ地銀」への着実な変身

公的資金完済とその後の安定的な内部留保蓄積を可能とする収益力の確保

地域内での存在感を高め、営業基盤である地元経済の成長を促す「強力なリレバン推進」

主要戦略

①大阪府南部を中心とした営業基盤の強化

②顧客満足度向上に向けた営業体制の変革

③経営管理態勢の強化

④CSR活動推進等による存在感の向上

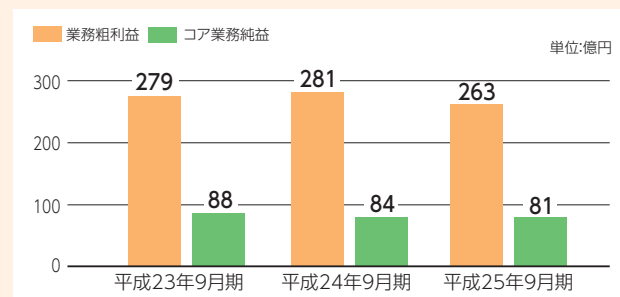
紀陽銀行単体		平成24年 9月期	実績	平成25年 9月期	実績	前年同期比	第3次中期経営計画 平成27年3月期	計画
規 模	預金等期末残高	3兆5,484億円		3兆6,056億円		572億円	3兆6,000億円以上	
	うち個人＋一般法人の残高	3兆3,846億円		3兆4,243億円		397億円	3兆4,500億円以上	
	貸出金期末残高	2兆5,595億円		2兆5,814億円		219億円	2兆6,000億円以上	
	うちローン残高	8,936億円		8,861億円		△75億円	9,300億円以上	
	投資信託期末残高	1,459億円		1,613億円		154億円	1,850億円以上	
収益性	コア業務純益	84億円		81億円		△3億円	200億円以上	
	コア業務純益ROA(コア業務純益÷総資産期中平均残高)	0.43%		0.41%		△0.02%	0.50%以上	
効率性	OHR(経費÷業務粗利益)	68.01%		72.94%		4.93%	65%程度	
健全性	不良債権比率	3.58%		3.47%		△0.11%	3.5%未満	
旧紀陽ホールディングス連結		平成24年 9月期	実績	平成25年 9月期	実績	前年同期比	第3次中期経営計画 平成27年3月期	計画
収益性	当期純利益	40億円		65億円		25億円	90億円以上	
健全性	自己資本比率	10.75%		10.57%		△0.18%	11%程度	
	TierI比率	8.24%		8.33%		0.09%	8%以上	

旧紀陽ホールディングス(連結)で、連結経常利益は前年同期比14億円増加の87億円となり、連結中間純利益は前年同期比25億円増加の65億円となりました。

■損益の状況 紀陽銀行 単体

■業務粗利益・コア業務純益

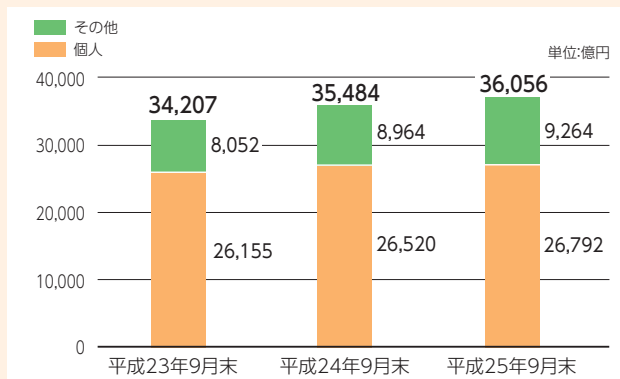
貸出金利息は市場金利の低下の影響を受け減少しましたが、有価証券利息配当金や役員取引等利益は増加しました。しかし、国債等債券売却益が17億円減少し、業務粗利益は前年同期比18億円減少の263億円となりました。また、コア業務純益は前年同期比3億円減少の81億円となりました。



■預金等の状況 紀陽銀行 単体

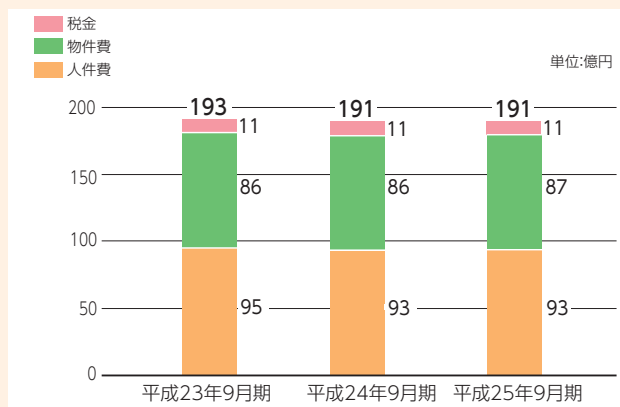
■預金等残高

預金等残高は個人預金とその他預金ともに増加し、前年同期末比572億円増加の3兆6,056億円となりました。



■経費

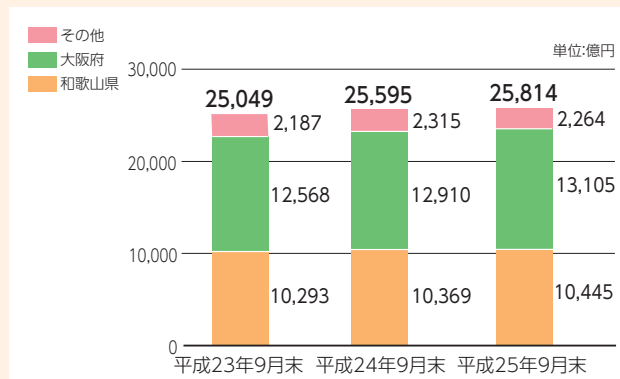
引き続き経費削減に努めており、経費全体では前年同期比横這いの191億円となりました。



■貸出金の状況 紀陽銀行 単体

■貸出金残高

貸出金残高は、前年同期末比219億円増加の2兆5,814億円となりました。



業績ハイライト

■自己資本比率

平成25年9月末の旧紀陽ホールディングス連結の自己資本額は、公的資金返済による資本剰余金の減少などにより、前期末比117億円減少の1,910億円となりました。また、リスクアセットは前期末比127億円減少しました。

この結果、旧紀陽ホールディングス連結自己資本比率(第二基準)は、前期末比0.57%低下の10.57%となりました。

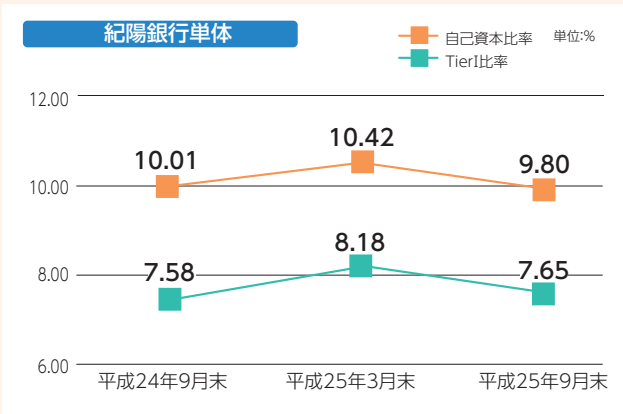
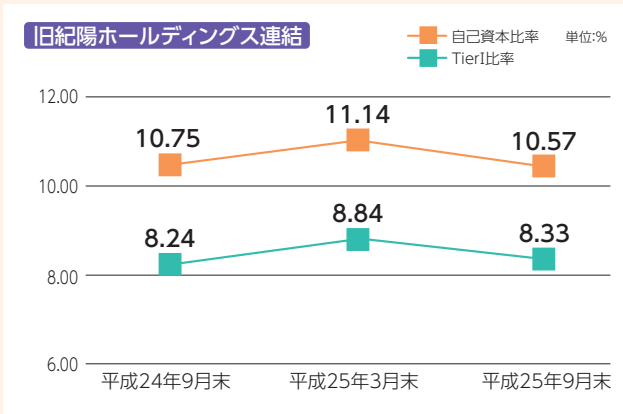
なお、紀陽銀行単体の自己資本比率(国内基準)は、前期末比0.62%低下し、9.80%となりました。

※第二基準とは、海外営業拠点を持たない銀行持株会社の基準です。

国内基準とは、海外営業拠点を有しない銀行の基準です。

	自己資本比率	自己資本額			リスクアセット
			TierⅠ	TierⅡ	
旧紀陽ホールディングス 連結	10.57% (△0.57%)	1,910億円 (△117億円)	1,507億円 (△102億円)	403億円 (△15億円)	18,072億円 (△127億円)
紀陽銀行 単体	9.80% (△0.62%)	1,762億円 (△123億円)	1,375億円 (△105億円)	386億円 (△17億円)	17,969億円 (△125億円)

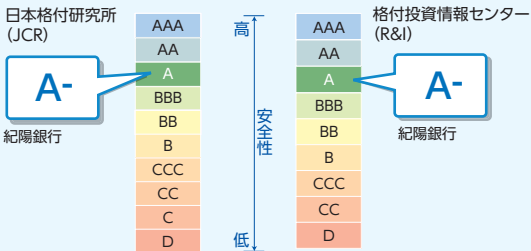
※()内は平成25年3月末対比



格付の取得

「格付」とは、第三者の格付機関が、銀行や企業などの「安全度」をランク付けたものです。

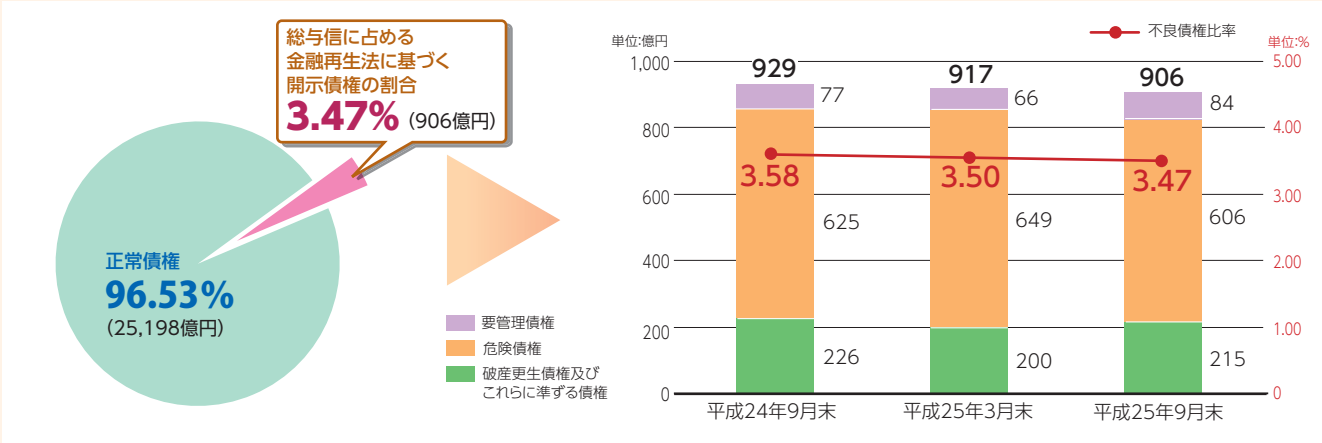
紀陽銀行では、株式会社日本格付研究所(JCR)と株式会社格付投資情報センター(R&I)から、格付の上位に位置する「A-」を取得しています。



■不良債権(金融再生法開示債権)

紀陽銀行 単体

不良債権残高は前期末比11億円減少し、906億円となりました。不良債権比率については、引き続きお取引先の事業再生や経営改善支援への取り組み強化を行っており、前期末比0.03%低下の3.47%となりました。



■不良債権の保全状況

平成25年9月末の不良債権総額906億円のうち85.5%は担保や引当金などで保全されております。

単位: 億円

	債権額 ^(※)	保全額			保全率
			担保・保証等	引当額	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	215	215	202	13	100.0%
危険債権	606	508	405	102	83.7%
要管理債権	84	52	42	10	62.0%
合計	906	776	650	125	85.5%

(※) 貸出金、支払承諾見返、外国為替、銀行保証付私募債、貸付有価証券、仮払金等の合計。

なお、銀行保証付私募債については「金融商品に関する会計基準」の適用に伴い、貸借対照表計上額(時価)にて表示しております。

用語解説

●破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

●危険債権

債務者は経営破綻の状態に至っていないが、財務状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取ができない可能性の高い債権

●要管理債権

3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権

地域密着型金融の取り組み ～預金・貸出金の状況～

和歌山県内に68店舗、大阪府内に36店舗(平成25年9月30日現在)を配置し、両府県を主要な営業基盤としております。

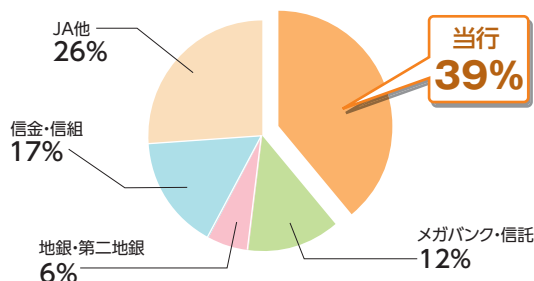
地域金融機関として、多くのお客さまによりきめ細やかな対応とサービスを提供し、地域の皆さまの貯蓄・資産運用に関するニーズにお応えするとともに、企業や個人事業主の皆さまの資金需要に対し、円滑な資金のご提供に努めております。

■ 預金・貸出金の和歌山県内シェア

和歌山県では預金、貸出金ともにトップシェアを維持しており、これからも地域のリーディングバンクとして地域の発展に向け、ますます重要な役割を果たせるよう努めてまいります。

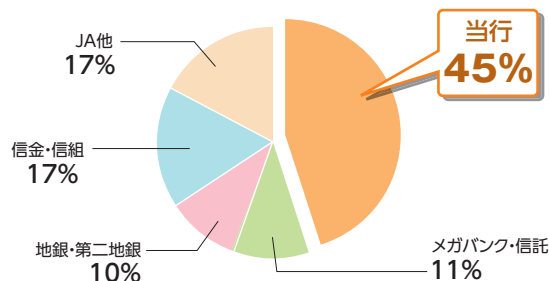
また、大阪府においても預金・貸出金とも順調に増加しており、より一層有力な地元銀行として認めていただけるよう営業体制の強化をすすめてまいります。

■ 和歌山県内預金シェア



※平成25年3月末現在 ゆうちょ銀行、政府系金融機関除く

■ 和歌山県内貸出金シェア



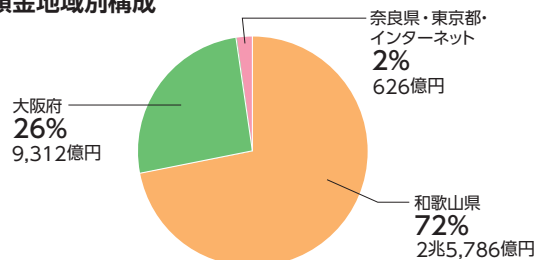
※平成25年3月末現在 ゆうちょ銀行、政府系金融機関除く

■ 預金・貸出金の地域別構成

平成25年9月末の総預金残高(譲渡性預金を除く)3兆5,724億円のうち、98%の3兆5,098億円を和歌山県、大阪府の店舗にてお預かりしております。

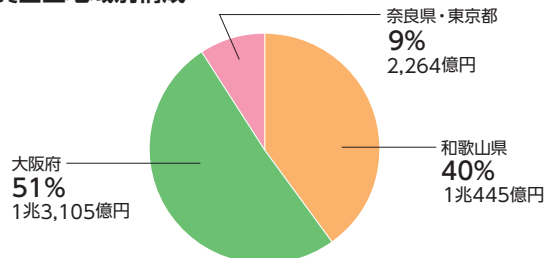
貸出金につきましても、和歌山県、大阪府の店舗での貸出金残高は2兆3,550億円となっており、総貸出金残高の91%を占めております。

■ 預金地域別構成



※平成25年9月末現在

■ 貸出金地域別構成



※平成25年9月末現在

経営サポート態勢

ビジネス活動のお手伝い

お取引先の経営課題解決に向けたお手伝いや成長支援、またお客さまの利便性向上に向けた地域密着型金融の推進に取り組んでいます。

●ピクシス営業室

外部専門家、外部機関などと連携し、地元企業の皆さまの様々なニーズにお応えするために「ピクシス営業室」を設置しております。経営戦略や事業承継をはじめとした資本政策などの経営課題をお客さまと共有し、解決に向けた情報のご提供やご提案を行っております。



ピクシス営業室

経営改善のお手伝い

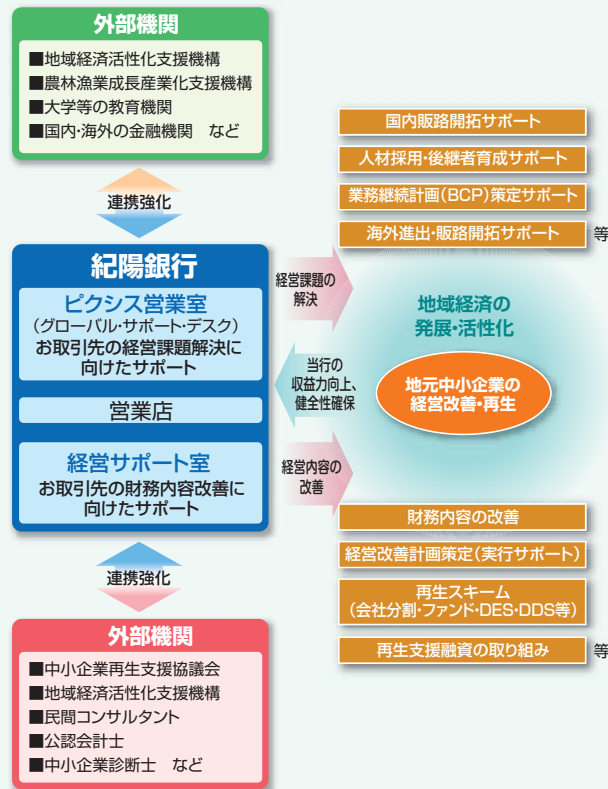
経営環境の低迷が続く中、お客さまとのコミュニケーションをより深めることにより、財務内容の改善や適正な事業運営に向けた経営改善計画の策定についてお手伝いしています。

●経営サポート室

経営内容の改善に取り組まれているお客さまの改善計画策定や財務内容の改善に向けたお手伝いをするため、経営サポート室を設置しております。お客さまにふさわしい改善方法をご提案できるよう、営業店と一体となって取り組んでいます。



経営サポート室



中小企業金融円滑化法期限到来後の対応方針について

中小企業金融円滑化法の期限到来後においても、紀陽銀行の金融円滑化に向けた基本方針は変わりません。

紀陽銀行では、地域金融の円滑化は最も重要な社会的役割のひとつであると認識し、金融仲介機能を最大限に発揮するよう、かねてより積極的に取り組んでまいりました。

また、中小企業金融円滑化法の主旨を踏まえ、平成22年1月には中小企業者等に対する金融の円滑化に関する基本方針を制定し、よりきめ細やかな対応を行うとともに、こうした取組姿勢をお客さまにご理解いただき、安心してお取引をいただけるよう努めてまいりました。

この中小企業金融円滑化法は平成25年3月末をもって期限を迎えましたが、法期限到来後も金融円滑化に向けた基本方針は何ら変わるものではありません。

これまでどおり、お客さまからの経営課題や資金繰り等のご相談に対しては、ご要望を真摯にお伺いし、丁寧な対応に努めてまいりますので、どうぞお気軽にお取引の本支店へご相談ください。

2013 Apr.
4月

「6次産業化セミナー」の開催

4月11日、和歌山ビッグ愛大ホールにおいて、「6次産業化セミナー」を開催いたしました。1次産業者をはじめ2次、3次産業の事業者の方々、各業界団体、官公庁を含め総勢176名に参加いただき、6次産業化のポイント等について講演を行いました。個別相談会では6次産業化に向けた商品開発や販路開拓、資金調達などの相談もお受けしました。



2013 May
5月

金銭基礎教育授業「MoneyConnection®」への協賛

子どもたちに「働くこととお金」について考える機会を提供するために、金融教育の一環である金銭基礎教育授業「MoneyConnection®」へ協賛いたしました。すでに「MoneyConnection®」の公認実施団体として活動している特定非営利活動法人キャリア・ファシリテーター協会と協力し、高校生を対象に認定講師による出張授業を行っています。今後も、金融機関としての知識やノウハウを生かした地域貢献に努めてまいります。



2013 Jun.
6月

和歌山大学・近畿大学にて「合同企業説明会」の開催

6月6日、提携先である近畿大学生物理工学部において、学内合同企業説明会を開催いたしました。紀陽銀行のお取引先企業を含む10社が参加され、のべ95名の学生の方々と面談されました。また、22日には和歌山大学において合同企業説明会を実施し、35社の企業が参加され、47名の学生へ熱のこもった企業PRをされました。紀陽銀行は毎年、これらの企業説明会を通じて地元企業と学生の皆さまに出逢いの場を提供しています。



2013 Jul.
7月

「紀陽サックス定期預金」の取扱い開始

7月1日から特別金利定期預金「紀陽サックス定期預金」の取扱いを開始いたしました。「紀陽サックス定期預金」は、話題の「少額投資非課税制度（愛称：NISA（ニーサ））」の口座開設お申込みのお客さまを対象とした、特別金利のキャンペーン商品です。紀陽銀行は今後も、時代に合った商品開発を行い、お客さまの暮らしに貢献してまいります。



※発売当初の名称「紀陽NISA定期預金」を8月5日より「紀陽サックス定期預金」と改称いたしました。

Jul.
2013 7月

メトロポリタン銀行との業務提携

中小企業の皆さまの海外進出支援を目指し、フィリピンのメトロポリタン銀行と業務提携協定を結びました。この業務提携により、フィリピンへの進出・事業拡大をお考えのお客さまへ向けて、現地投資環境の情報提供や口座開設のサポートなどが可能となりました。引き続きお客さまの海外ビジネス活動をお手伝いする体制を強化してまいります。

Sep.
2013 9月

「日中ものづくり商談会@上海2013」の開催

9月11日、12日の2日間、紀陽銀行をはじめ地方銀行、自治体など40団体の共催により中国・上海市の上海世貿商城にて「日中ものづくり商談会@上海2013」が開催されました。中国での部品調達や販路拡大を目指す日本企業と現地企業のビジネスマッチングに、紀陽銀行のお取引先を含む日系企業600社以上が参加・出展。活気のある交流と商談が行われました。



Aug.
2013 8月

九度山町、和歌山大学と「連携協力に関する協定書」を締結

和歌山県九度山町と和歌山大学、及び紀陽銀行の三者により、九度山町の経済活性化のための連携協定を締結いたしました。九度山町の優れた観光資源、産業特性を生かし、観光集客や新たなビジネスモデルの創出、雇用創出などを目指します。紀陽銀行では地域経済の発展支援に向けて、今後もさまざまな協働事業に取り組んでまいります。

Sep.
2013 9月

上本町支店、八戸ノ里支店のオープン

紀陽銀行の「大阪東支店」が近鉄「大阪上本町駅」前への移転によって「上本町支店」と改称し、9月17日より新たなスタートを切りました。移転・改称に伴い店舗機能・業務内容ともに一層の充実を図り、お客さまサービスの強化に努めております。また、10月10日には近鉄奈良線「八戸ノ里駅」前に住宅ローンセンターを併設した「八戸ノ里支店」を開店いたしました。お客さまの利便性向上を目指して、引き続き店舗展開の充実を図ってまいります。



上本町支店

CSR活動 ～環境への取り組み～

紀陽フィナンシャルグループでは、環境保全や地域の美化活動に積極的に取り組んでおります。

■ISO14001認証取得

紀陽銀行では、平成13年3月に本店敷地内を対象としてISO14001の認証を取得し、また、紀陽フィナンシャルグループ全体としても環境に配慮した取り組みを行っております。

■「紀陽エコビジネス」の取扱い

紀陽銀行では再生可能エネルギーの固定価格買取制度を活用した事業への参入を検討している事業者に対し、平成24年12月より「紀陽エコビジネス」の取扱いを開始。企業のエコ活動をサポートしています。



■地域の環境美化活動への参加

紀陽銀行では、創立100周年を機に平成7年6月に「紀陽銀行小さな親切の会」を発足させ、同時に社団法人「小さな親切」運動本部に加入しました。毎年、同会の活動の一環として、各営業店エリアにおける清掃活動や地元の催し物へのボランティア参加、献血への協力などの活動を行っております。

今後も、これまで以上に地元のお客さまのお役に立てるよう積極的に取り組み、地域づくりのお手伝いをしてまいります。



■和歌山県「企業の森」事業

紀陽銀行では、環境保護活動への取り組みの一環として、和歌山県が森林の環境保全を目的として実施している「企業の森」事業に参画しています。平成18年4月より、和歌山県日高川町の「紀陽の森」において活動を開始、これまでに約3,300本の植樹を行いました。毎年、社内にてボランティアを募り、下草刈り活動を通じて森林の保全活動を行っております。



■「日本の森を守る地方銀行有志の会」へ参加

紀陽銀行では、全国の地方銀行が協力して環境保全に取り組む「日本の森を守る地方銀行有志の会」に参加しております。同会の取り組みとして25年4月には「日本の森を守る東北サミット」を宮城県仙台市にて開催し、各地方銀行の代表者による植樹式も行われました。

また、大阪府堺市と堺市内に出店している金融機関が協力して環境保全に取り組む「SAKAIエコファイナンスサポーターズ倶楽部」へも参加しており、積極的に環境問題に取り組んでおります。



熊野古道の参詣道環境保全活動

和歌山県が誇る「世界遺産」熊野古道は、年間を通して雨量が多い地域にあり、台風などの被害にもたびたび見舞われています。紀陽銀行では、熊野古道参詣道の傷みを修復し、その価値を守り次代へ伝えていくためのボランティア活動を行っています。和歌山県世界遺産センター職員の方の立ち会いのもと、行員の参加により中辺路の道普請(土の補充)を実施いたしました。地域の環境価値と文化価値を守る活動に、一層力を注いでまいります。



和歌山県世界遺産協議会への寄付

紀陽銀行では、平成26年7月に世界遺産登録10周年を迎える「紀伊山地の霊場と参詣道」の保全活動をサポートするため、お客さまにお預入れいただいた金額の0.01%相当額を和歌山県世界遺産協議会に寄付させていただき「世界遺産定期預金」を販売し、多くのお客さまにご賛同いただき、おかげさまでこのたび募集総額である200億円に達しました。



エコ販促品の利用

紀陽銀行では、店頭などでお客さまにお渡しするPR用頒布品に環境に配慮した商品を導入しています。例えば、再生紙100%のポケットティッシュや使用後にそのまま古紙回収に出せるアルミキッチンホイル、蛍光増白剤・柔軟剤および塩素系漂白剤を使用せず環境に配慮した生産工程で作られたタオルなどがあります。



CSRレポートを発刊しています

紀陽フィナンシャルグループでは、当グループのCSR(社会的責任)活動をより多くの方にご理解いただくために、「CSRレポート」を発刊しております。当グループの活動全体を紹介するとともに、営業店での独自の取り組みも紹介しております。本誌は紀陽銀行の各営業店および関連各社に設置していますので、ぜひご覧ください。



CSR活動 ～地域社会への取り組み～

紀陽フィナンシャルグループでは、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

■店舗での取り組み

■バリアフリーの取り組み

誰もがご利用になりやすい銀行を目指して、店舗でのバリアフリー化を推進しています。店頭への車いす配置や車いす対応記帳台の設置、段差解消スロープや点字ブロックの設置などのバリアフリー機能の導入店を拡大しています。



段差解消スロープと点字ブロックの設置

■ユニバーサルサービス研修の実施

紀陽銀行では、年齢・性別・国籍・障がいの有無にかかわらず、すべてのお客さまに公平なサービスと情報をご提供できるように、「ユニバーサルサービス」の実践研修を行っています。

また、行員が認知症に対する理解を深めるために「認知症サポーター」の養成にも努めています。



■芸術・文化への取り組み

芸術と文化を通じた豊かな地域社会づくりを目指す活動の一環として、平成7年より一般財団法人紀陽文化財団が開催している「紀陽コンサート」。平成25年9月7日には、第36回目を数え、日本センチュリー交響楽団を迎えて演奏会を行いました。

また、和歌山県立近代美術館・博物館で開催される特別展をはじめとした展覧会に地域の皆さまをご招待しております。



■スポーツを通じた取り組み

■バスケットボールの子ども教室(クリニック)

紀陽フィナンシャルグループの女子バスケットボール部「紀陽ハートビーツ」は日々のトレーニングに加えて、地元の小中学生を対象としたバスケットボールの子ども教室を開催しております。

いつまでも、地元で愛されるチームとして活動を行ってまいります。



■「地元スポーツチーム応援定期」の取扱い

平成25年11月1日から26年2月14日まで、バレーボールVプレミアリーグに加盟する男子バレーボールチーム「堺ブレイザーズ(本拠地:大阪府堺市)」の応援定期を販売し、地元スポーツチームを地域の皆さまとともにサポートしております。



■ 地域イベントへの取り組み

紀陽銀行は、「和歌山県綱引選手権大会」や少年野球大会、卓球大会などに協賛しております。また、「和歌浦ベイマラソンwithジャズ」の運営ボランティア派遣や和歌山市の夏の中心的事件の一つである「紀州おどり」への参加など、地域の各種イベントへの参加を通じ、地域の皆さまとの交流を深めております。



和歌山県綱引選手権大会



和歌浦ベイマラソン with ジャズ

■ 地域の金融教育への取り組み

■ 和歌山大学「和歌山企業トップ経営論」での講義

和歌山県が実施している「産業人材育成支援事業」の一環として、和歌山大学で紀陽銀行の役員が「和歌山企業トップ経営論」の講義を行っております。また、和歌山工業高等専門学校においては、「企業実践講座」と題して紀陽銀行の職員が講義を行っております。



■ 地域の中学生の職場見学

地域社会の繁栄に貢献するための活動の一環として、和歌山市内の中学校でのキャリア教育をお手伝いしています。毎年中学校の生徒の皆さまが紀陽銀行を訪問され、本店営業部の見学とともに、銀行の仕組みや仕事のやりがい、社会貢献などについて行員と質疑応答を行っております。



■ インターシップの受け入れ

産学連携による人材育成や地域貢献活動の一環として、平成25年度も8月22日～25日の4日間の日程で実施。9大学33名が参加しました。当日は基本業務の説明や社会人としてのマナーについて講義を受けた後、業務体験や意見交換会なども行われ充実した内容となりました。



旧紀陽ホールディングス(連結)

第9期中 中間連結貸借対照表

(平成25年9月30日現在)		単位:百万円	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	125,093	預金	3,560,120
コールローン及び買入手形	45,000	譲渡性預金	26,205
買入金銭債権	864	債券貸借取引受入担保金	67,673
商品有価証券	1,531	借入金	24,780
有価証券	1,106,317	外国為替	20
貸出金	2,574,211	社債	10,000
外国為替	2,510	その他負債	39,772
その他資産	28,671	退職給付引当金	32
有形固定資産	33,166	役員退職慰労引当金	32
無形固定資産	10,557	睡眠預金払戻損失引当金	661
繰延税金資産	4,319	偶発損失引当金	391
支払承諾見返	12,615	支払承諾	12,615
貸倒引当金	△ 24,264	負債の部合計	3,742,307
		(純資産の部)	
		資本金	58,350
		資本剰余金	29,872
		利益剰余金	65,285
		自己株式	△ 1,524
		株主資本合計	151,983
		その他有価証券評価差額金	23,493
		繰延ヘッジ損益	85
		その他の包括利益累計額合計	23,579
		少数株主持分	2,724
		純資産の部合計	178,287
資産の部合計	3,920,594	負債及び純資産の部合計	3,920,594

第9期中 中間連結損益計算書

(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)		単位:百万円	
科 目	金 額	科 目	金 額
経常収益			39,006
資金運用収益	27,345		
（うち貸出金利息）	(20,824)		
（うち有価証券利息配当金）	(6,312)		
役務取引等収益	5,763		
その他業務収益	2,529		
その他経常収益	3,368		
経常費用			30,268
資金調達費用	2,212		
（うち預金利息）	(1,630)		
役務取引等費用	2,014		
その他業務費用	3,068		
営業経費	20,931		
その他経常費用	2,041		
経常利益			8,738
特別損失			42
固定資産処分損	8		
減損損失	33		
税金等調整前中間純利益			8,696
法人税、住民税及び事業税	989		
法人税等調整額	1,103		
法人税等合計			2,093
少数株主損益調整前中間純利益			6,602
少数株主利益			38
中間純利益			6,563

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■連結範囲および持分法の適用に関する事項

連結子会社は7社、持分法適用会社は0社であります。

連結子会社

- 株式会社紀陽銀行
- 紀陽情報システム株式会社
- 紀陽ビジネスサービス株式会社
- 阪和信用保証株式会社

- ・紀陽リース・キャピタル株式会社
- ・株式会社紀陽カード
- ・株式会社紀陽カードディーシー

■ 紀陽銀行 (単体)

第204期中 中間貸借対照表

(平成25年9月30日現在)

単位:百万円

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預け金	124,896	預金	3,572,474
コールローン	45,000	譲渡性預金	33,205
買入金銭債権	864	債券貸借取引受入担保金	67,673
商品有価証券	1,531	借入金	24,566
有価証券	1,108,129	外国為替	20
貸出金	2,581,459	社債	10,000
外国為替	2,510	その他負債	31,396
その他資産	15,226	役員退職慰労引当金	32
有形固定資産	33,710	睡眠預金払戻損失引当金	661
無形固定資産	6,508	偶発損失引当金	391
繰延税金資産	2,892	再評価に係る繰延税金負債	178
支払承諾見返	12,615	支払承諾	12,615
貸倒引当金	△ 20,795	負債の部合計	3,753,216
		(純資産の部)	
		資本金	80,096
		資本剰余金	15,697
		資本準備金	259
		その他資本剰余金	15,437
		利益剰余金	59,895
		利益準備金	3,660
		その他利益剰余金	56,235
		繰越利益剰余金	56,235
		自己株式	△ 18,101
		株主資本合計	137,588
		その他有価証券評価差額金	23,332
		繰延ヘッジ損益	85
		土地再評価差額金	326
		評価・換算差額等合計	23,744
		純資産の部合計	161,333
資産の部合計	3,914,549	負債及び純資産の部合計	3,914,549

第204期中 中間損益計算書

(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)

単位:百万円

科 目	金 額
経常収益	35,841
資金運用収益	27,269
（うち貸出金利息）	(20,804)
（うち有価証券利息配当金）	(6,256)
役務取引等収益	4,661
その他業務収益	427
その他経常収益	3,482
経常費用	26,443
資金調達費用	2,210
（うち預金利息）	(1,630)
役務取引等費用	2,437
その他業務費用	1,404
営業経費	18,965
その他経常費用	1,426
経常利益	9,397
特別損失	42
税引前中間純利益	9,355
法人税、住民税及び事業税	736
法人税等調整額	1,087
法人税等合計	1,823
中間純利益	7,531

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 役員一覧 (株式会社 紀陽銀行)

(平成25年10月1日現在)

取締役頭取 (代表取締役)	片 山 博 臣	常務取締役	鈴 木 教 秀	監査役 (常勤)	樋 口 勝 二
専務取締役	泉 清 映	常務取締役	島 慶 司	監査役 (常勤)	北 山 隆 一
専務取締役	松 岡 靖 之	取締役	爲 岡 英 喜	監査役 (非常勤・社外監査役)	松 川 雅 典
常務取締役	森 川 保 彦	取締役	今 村 裕 一	監査役 (非常勤・社外監査役)	増 尾 穰
常務取締役	成 田 幸 夫	取締役	竹 中 義 人	監査役 (非常勤・社外監査役)	大 平 勝 之
常務取締役	鈴 木 健次郎	取締役 (社外取締役)	水 野 八 朗		

(平成25年9月30日現在)

詳しくは紀陽銀行ホームページをご覧ください。



	店舗数	店舗外ATM
和歌山県	68	116
大阪府	36	45
奈良県	2	1
東京都	1	—
三重県	—	1
合計	107	163

※このほか、資産運用に関するコンサルティングデスク「紀陽 陽城の前の相談室」、インスタブランチ「プラザ イズミヤ和歌山店出張所」、外貨両替専門の「関西国際空港出張所」、住宅ローンセンター(9か所)、ビジネスサポートセンター(本店内)を開設しております。



■発行済株式総数

普通株式 73,399,948株

■株主総数

普通株式 23,089名

※株式会社紀陽ホールディングスと株式会社紀陽銀行は、平成25年10月1日に株式会社紀陽銀行を存続会社として合併し、東京証券取引所市場第1部に上場いたしました。

■配当方針

利益配分につきましては、銀行持株会社の公共性に鑑み、経営の健全性を確保するための適正な内部留保を確保しつつ、安定的な配当を実現することを基本方針としています。

■株主名簿管理人

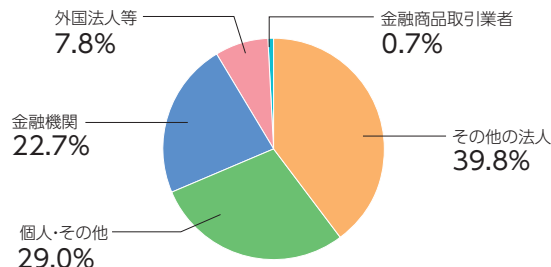
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

■株式事務取扱場所

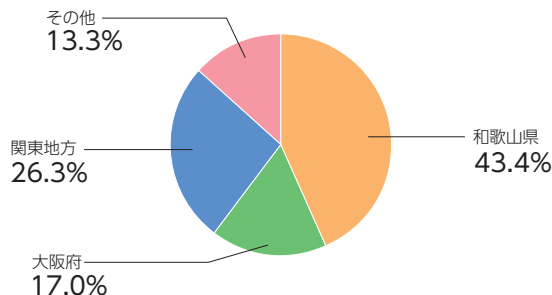
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部
電話 0120-094-777(通話無料)

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、見通しと異なる可能性があることにご留意ください。

■所有者別株式分布 (平成25年10月1日現在)



■地域別株式分布状況 (平成25年10月1日現在)



株式に関する各種手続き

届出住所・姓名などの変更、配当金の振込先の指定または変更につきましては、口座開設されている証券会社(証券会社に口座開設されていない株主さまは、左記の三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部)へ届出ください。

単元未満株式をお持ちの皆さまへ

1単元(100株)未満の株式を保有されている株主さまは、保有株式の買い取り請求または単元株への買い増し請求をしていただくことができます。詳細につきましては、左記(株式事務取扱場所)までお問い合わせください。

(追記) なお、お手続きに必要な書類等については、当行ホームページより左記株式事務取扱場所のホームページにお入りいただき、検索することができます。

〔紀陽銀行HP <http://www.kiyobank.co.jp/>〕



紀陽フィナンシャルグループは、2015紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会を応援します。

KIYO
FINANCIAL GROUP

株式会社 紀陽銀行

平成25年12月発行

経営企画部 広報・CSR推進室

〒640-8656 和歌山市本町1丁目35番地

TEL.073-426-7133

<http://www.kiyobank.co.jp/>

表紙写真：古座川の一枚岩

清流古座川の流れに沿って屏風のようにそそり立つ、高さ100m、幅500mの一枚の巨岩。こうして大きな岩のまま残る一枚岩は珍しく、国の天然記念物に指定されています。四季折々違った姿を見せ、特に紅葉の季節は澄み切った古座川に映しだす風景のコントラストは見事です。

また、和歌山県では古座川の一枚岩を含めた貴重な地質や地形を有する紀南地域（「南紀熊野ジオパーク構想地域」）の平成26年度の日本ジオパーク認定を目指しております。

めざせ！
ジオパーク
南紀熊野

